

米国 製造業部門の拡大ペース再加速を示唆(07年5月ISM製造業景気指数)

発表日：2007年6月1日(金)

～新規受注、生産拡大により景況感は高水準に～

第一生命経済研究所 経済調査部
桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

ISM (the Institute for Supply Management) の推移

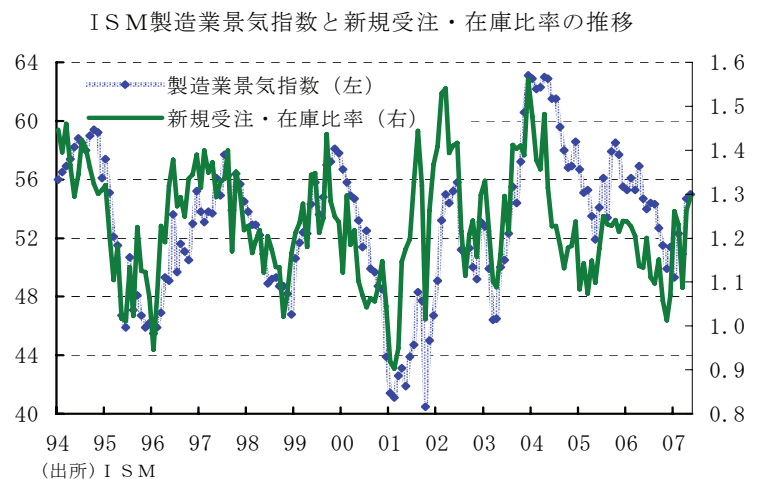
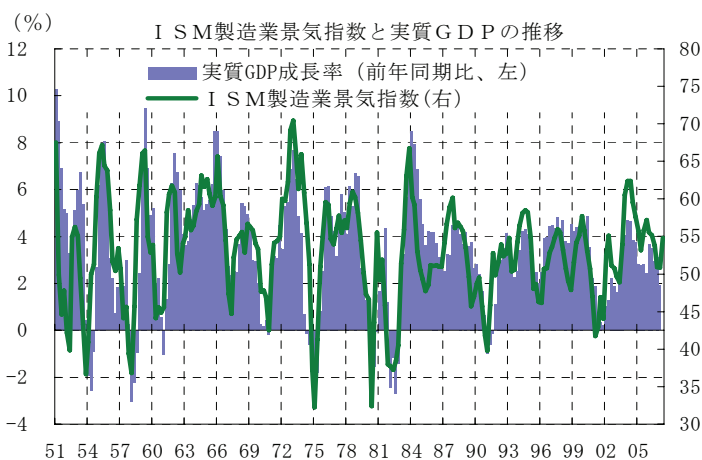
	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
06/09	52.7	54.2	54.9	49.6	47.1	54.1	46.5	61.0	55.3	56.0
06/10	51.5	52.1	52.7	50.6	49.3	50.6	44.5	47.0	57.8	57.0
06/11	49.9	49.7	49.3	48.9	49.1	52.8	46.5	53.5	56.9	56.5
06/12	51.4	51.9	52.4	49.4	48.5	53.3	45.0	47.5	54.3	55.5
07/01	49.3	50.3	49.6	49.5	39.9	52.7	43.5	53.0	52.5	54.5
07/02	52.3	54.9	54.1	51.1	44.6	50.8	51.5	59.0	54.0	61.5
07/03	50.9	51.6	53.0	48.7	47.5	51.3	47.0	65.5	55.5	57.5
07/04	54.7	58.5	57.3	53.1	46.3	50.2	54.5	73.0	57.0	58.0
07/05	55.0	59.6	58.3	51.9	46.1	50.3	52.5	71.0	59.0	57.5

55.0 と前月比 0.3 ポイント上昇

07年5月のISM製造業景気指数は55.0と市場予想の54.0への低下に反し前月から0.3ポイント上昇した。指数を構成する5項目では雇用、在庫が低下したものの、新規受注、生産、入荷遅延が上昇した(詳細は後述)。加えて、拡大した業種数は20業種中12業種(前月11業種)と小幅増加した。

ISMによると5月の55.0という水準は実質GDPに換算すると+4.1%成長を示す。4、5月の水準は1～3月期平均の50.8(+2.8%成長)を上回っており4～6月期に加速することを示唆している。

5月のISM製造業景気指数は海外需要の好調持続や在庫調整の進展により、昨年9月以降続いていた拡大縮小の分岐点である50前後の水準を2ヶ月連続で大きく上回った。さらに、ISM製造業景気指数に1、2ヵ月先行する新規受注・在庫比率は新規受注の上昇・在庫の低下によって上昇し、ISM製造業景気指数は上昇を続けることを示唆しており、製造業部門のモメンタムは再加速している。今後も製造業部門のモメンタムは在庫調整の終了に伴い上昇すると予想される。ただし、既に高い水準にあること、今回のボトムの水準が高かったことから、今後緩やかなペースでの上昇が見込まれる。

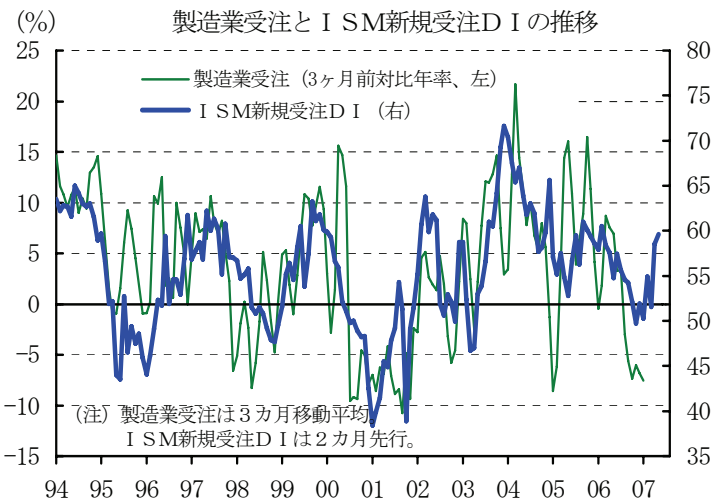
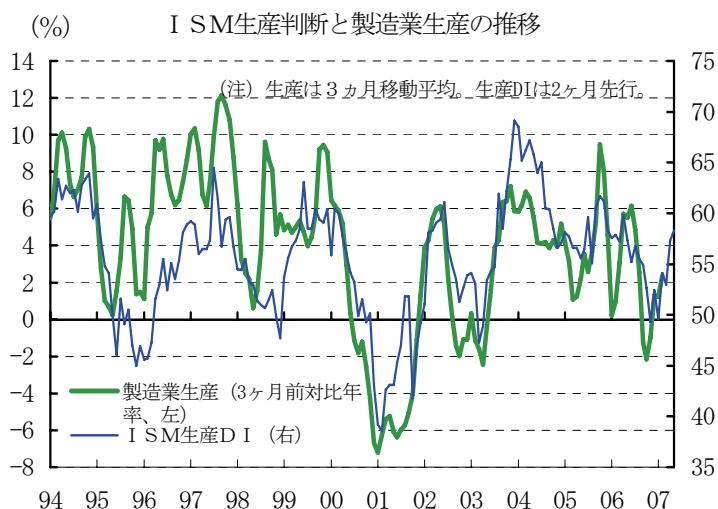


本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

製造業受注のモメンタムは4月以降大幅に改善する公算

DIを個別にみると、5月に生産の拡大した業種数は9業種（前月11業種）と減少したものの、生産DIは前月から1.0ポイント上昇し高い水準を維持していることから、製造業生産（FRB）は3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で上昇すると予想され、製造業生産のモメンタムの改善が続くとみられる。

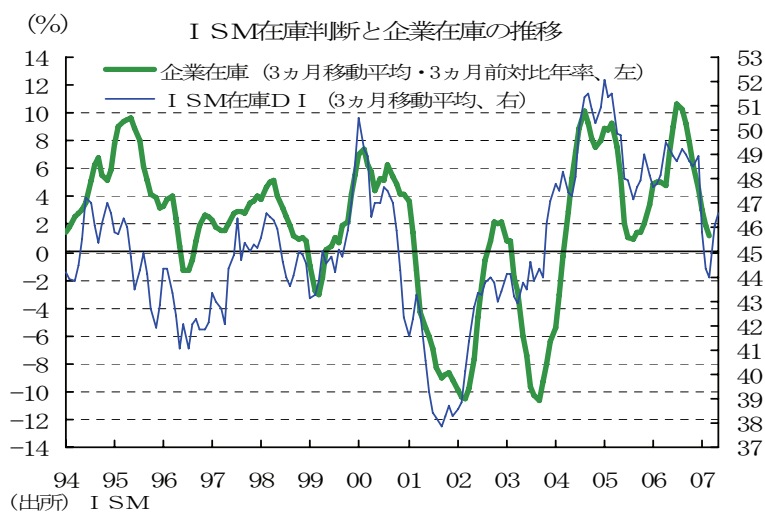
さらに、5月に新規受注の拡大した業種数も9業種（前月11業種）と減少したが、新規受注は5月に前月から1.1ポイント上昇し、高い水準となったことから、製造業受注（商務省、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率）も4月以降モメンタムの加速が見込まれる。



在庫調整は軽微なものとなる公算

在庫面では、在庫DIが46.1と前月から0.2ポイント低下し、在庫を増やした業種数も20業種中5業種と前月の6業種から減少した。加えて、新規受注と同時に在庫が増加する前向きな在庫の拡大は4業種（前月5業種）と少ないことから製造業での在庫の積み増しに慎重な姿勢に変化はない。

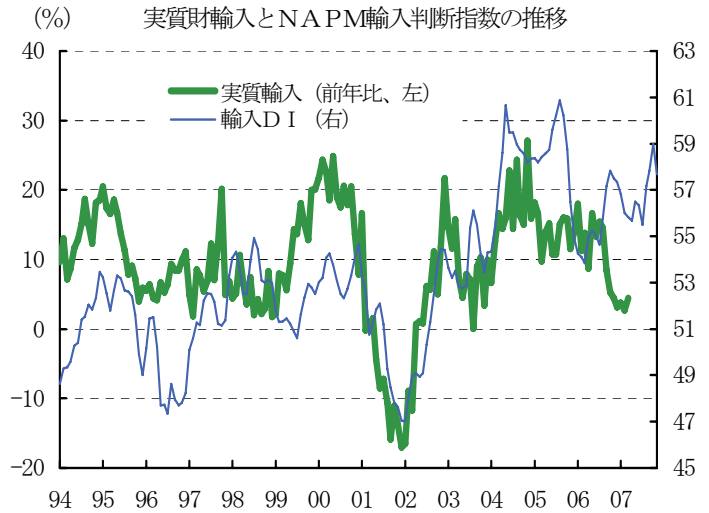
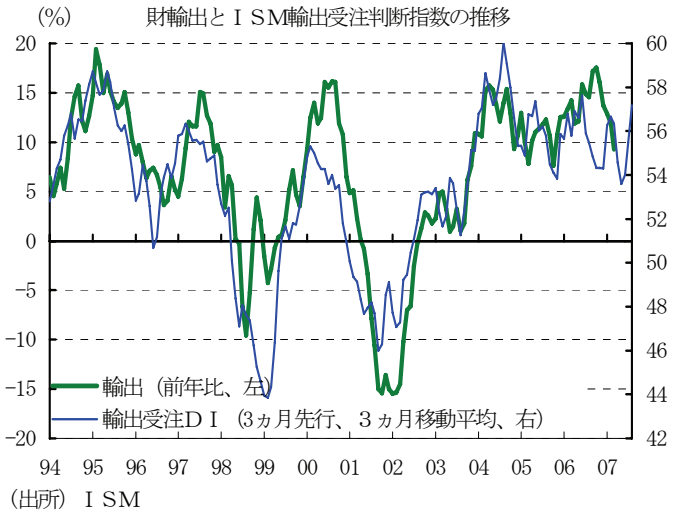
「受注が増加するなかで在庫の減少した業種数」が5業種（前月7業種）と前月から減少したものの、「新規受注が減少するもとで在庫が増加する、悪い在庫増となった業種」も1業種（前月2業種）に減少したことから、現在の在庫調整が深刻なものになるリスクは小さいと判断される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

**貿易赤字は高水準
持続**

外需に関しては、通関統計ベースの輸出に「3ヵ月先行する3ヵ月移動平均の輸出受注D I」が1月にかけて低下したことから、輸出（通関ベース）は4月にかけて鈍化する可能性がある。その後、輸出受注D Iは上昇に転じ5月には59.0（前月57.0）まで上昇しており、輸出（通関ベース）は5月以降拡大ペースを速めると予想される。一方、輸入D Iは57.5と前月の58.0から低下したものの高い水準を維持していることから、通関ベースでの輸入の増加ペース加速を示唆している。このため、貿易赤字額は高水準で推移する可能性が高い。

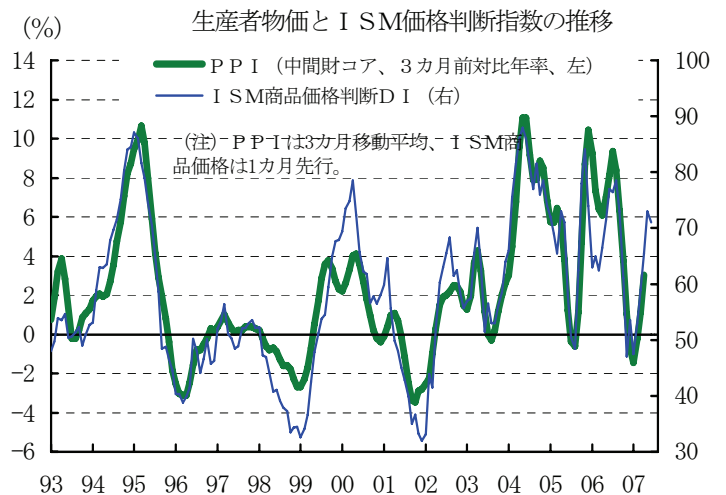
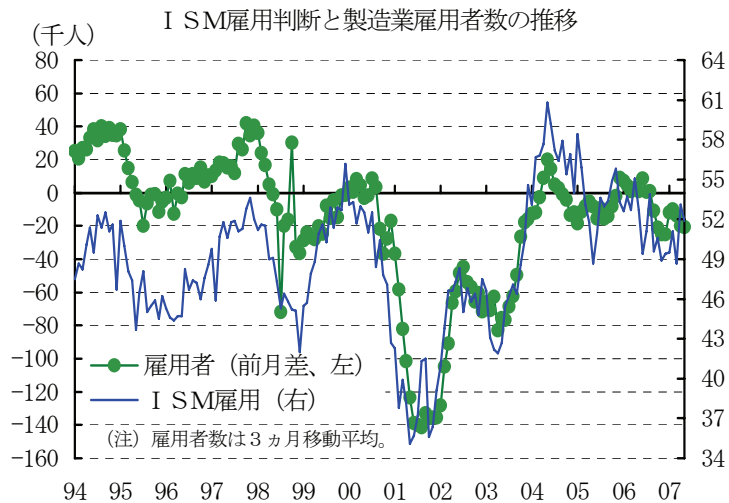


**製造業雇用の減少
ペースは鈍化する
公算**

雇用関連では、雇用指数が51.9（前月53.1）と低下し、雇用の増加した業種数も8業種（8業種）と変わらずとなっており、製造業雇用者数の減少（3ヵ月移動平均）が減速することを示唆している。

**目先川中での物価
上昇圧力が強まる
公算**

物価面では、商品価格D I（仕入れ価格）は71.0と前月から低下したが小幅であり4月にかけて水準を切り上げたことから、商品価格D Iに遅れて動く傾向があるP P I（中間財コア）は3ヵ月前対比年率で5月にかけて上昇する可能性が高い。ただし、製造業の生産性の高い伸びを背景に最終財への影響は限定的なものにとどまると予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。